

活動報告：子どものための音楽会

1. ねらい

「子どものための音楽会」は2011年からスタートし、10年目を迎えた。この音楽会は広島文化学園大学学芸学部音楽学科2年次に開講している「演奏活動Ⅰ」（前期：選択科目）、「演奏活動Ⅱ」（後期：選択科目）の実践学習の一環として開催している音楽会で、ぶんぶんひろばの活動として定着している。2021年度は2020年度に続きコロナ禍により前期科目の「演奏活動Ⅰ」の実施は自粛せざるを得なかったため、学内施設での模擬発表という形で実施した。



写真1 模擬発表の様子 学生が子ども役に

後期の「演奏活動Ⅱ」は、学生のグループ人数は4名以下、参加者を3組限定にし、コロナ対策を実施したうえで月に1回から3回、木曜日の11時30分から12時の30分間、子ども・子育て支援研究センターぶんぶんひろばにて6回の開催を計画した。

コロナ対策としては、①4名以下の小編成グループ、②体温測定、手指消毒の徹底、③管楽器用マスク（カバー）の装着（写真2）、④その他の歌唱、ピアノ等の楽器の学生はマスク着用、⑤演奏者と親子の間を2m以上空ける、⑥換気を徹底する、⑦親子とのふれあい、楽器の手渡しなど禁止。を条件とした。

「演奏活動Ⅰ」「演奏活動Ⅱ」は、子どもを対象とした演奏会について、企画の立て方、プログラ

ムの組み方、しゃべり方、立ち振る舞いを始め、子どもたちをひきつけるためのパフォーマンス力を磨くための科目である。さらに、子どもや保護者の演奏ニーズを把握し、そのニーズに応じた演奏会を開催できるようにすることを目標にしている。



写真2 コロナ対策として、管楽器用マスクを装着

2. 活動の内容

「演奏活動Ⅰ」「演奏活動Ⅱ」の授業では、音楽会の企画を立てるところから始まり、選曲、ペーパーサートなどの準備を行い、演奏や演出の練習を重ね、通しリハーサルを行ったうえで本番を実施している。また、演奏会後は保護者のアンケート集計およびDVD視聴による振り返り（反転学習）を必ず行い、報告書を作成し反省点をもとに次回の音楽会を企画する。といった流れで実施している。

これまでは音楽会の約束事として、グループ毎に2・3曲の手遊び歌を用意すること、そして子ども達が簡易楽器などを使って音楽に参加する場面を作ることを条件としていたが、楽器の受け渡しなどの交流、ふれあい活動については禁止とした。また、参加者を3組限定にし、これまでおこなっていた学生の見学を自粛することにより密を避ける対策を取った。

学生らは、子どもとの交流や、ふれあい活動がない中でどのようにしたら、子どもたちが飽きないかを工夫しながら、30分のプログラムを、童謡、唱歌、クラシック、アニメソングなどの演奏ほか、手遊び歌、音楽絵本や紙芝居、ペーパーサート、ダンスなどの企画を考えた。



写真3 絵本を活用し音楽活動する学生たち

その他に、ピアスなどの装飾品はつけない事など、子ども達にとって必要な安全面や衛生面への配慮などについても学んでいる。

3. 2021年度実績報告

2021年度の前期はコロナ禍により未実施。後期は11月4、11、25日、12月9日、1月13、27日6回の「子どものための音楽会」を予定していたが、1月13、27日の音楽会は、広島県の新型コロナウイルスの感染拡大状況および方針によりオンライン授業となったため中止となり、結果4回の開催となった。



写真4 ポピュラー専攻学生による音楽会の様子

2021年度も2020年度に引き続き、コロナ禍によりこれまで実施していた交流、ふれあい活動が実施できず、学生たちもいろいろと工夫や配慮をしながらの実践となった。模擬実践になったり、準備していたものが中止になったりと、学生にとって残念な状況下ではあったが、その中でも開催できた4回の本番については、参加して下さった親子が楽しそうに音楽を聴いている様子が窺え学生たちの喜びとやりがいにつながった。

4. 今後の課題と展望

2022年度も引き続き、コロナ禍での実施となると思われる。どのようにしたら安全かつ安心の音楽会となるか、学生たちとディスカッションをしながら検討していきたい。また、2021年度に使用した管楽器用マスクは演奏にも支障がなく、飛沫を防ぐことができることから次年度も引き続き活用したいと考えている。

(文責：学芸学部音楽学科 高橋 千絵)